

別記様式第二号を次のように改める。

(表 面)

<p style="text-align: center;">第 号</p> <p style="text-align: center;">(職) 氏 名</p> <p style="text-align: center;">精神保健福祉職員の証</p> <p style="text-align: right;">年 月 日 生</p> <p>平成 年 月 日</p> <p>厚生労働省(都道府県又は指定都市)</p> <p style="text-align: left;">印</p>	<p style="text-align: center;">写 真 ち よ う 付 面</p>
---	--

(日本工業規格 A 列 6 番)

(裏 面)

精神保健及び精神障害者福祉に関する法律抜すい

(報告の徴収及び立入検査)

第十九条の六の十六略

2 前項の規定により立入検査を行う当該職員は、その身分を示す証票を携帯し、関係者の請求があつたときは、これを提示しなければならない。

3 第一項の規定による権限は、犯罪捜査のために認められたものを解釈してはならない。

第(申請等)に基づき行われる指定医師の診察等は、第二十二條から前条までの規定による申請、通報又は届出のあつた者について調査の上必要があると認めるときは、その指定する指定医をして診察をさせなければならない。

2 都道府県知事は、入院させなければ精神病害のために自身を傷つけ又は他人に害を及ぼすおそれがあることが明らかである者については、第二十三條から前条までの規定による申請、通報又は届出がない場合においても、その指定する指定医をして診察をさせることができる。

3 都道府県知事は、前二項の規定により診察をさせる場合には、当該職員を立ち会わせなければならない。

4 指定医及び前項の当該職員は、前三項の職務を行うに当たつて必要な限度においてその者の居住する場所へ立ち入ることができる。

5 第十九条の六の十六第二項中「前項」とあるのは、「第二十七條第四項」と、「当該職員」とあるのは、「指定医及び当該職員」と、同条第三項中「第一項」とあるのは、「第二十七條第四項」と読み替えるものとする。

第三十八條の六(報告徴収等)

第三十八條の六 厚生労働大臣又は都道府県知事は、必要があると認めるときは、精神病院の管理者に対し、当該精神病院に入院中の者の症状若しくは処遇若しくは報告を求め、若しくは診察録その他の帳簿書類の提出若しくは提示を命じ、当該職員若しくはその作成又は保存に代えて、精神病院に立ち入り、これら事項に関する診療録その他の帳簿書類(その作成又は保存に代えて、電磁的記録の作成又は保存されている場合における当該電磁的記録を含む。)を検査させ、若しくは当該精神病院に入院中の者の関係者に質問させることができる。

3 2 第十九条の六の十六第二項及び第三項の規定は、第一項の規定による立入検査、質問又は診察に適用する。この場合において、同条第二項中「前項」とあるのは、「第三十八條の六第一項」と、同条第三項中「第一項」とあるのは、「当該職員及び指定医」と、同条第三項中「第一項」とあるのは、「第三十八條の六第一項」と読み替えるものとする。

(注意)

一 この証票の取扱いに注意し、破り、汚し、又は失つたときは直ちに厚生労働大臣(都道府県知事又は指定都市市長)に届け出ること。

二 精神保健福祉職員でなくなつたときは、厚生労働大臣(都道府県知事又は指定都市市長)に返還すること。